

(別紙5)

整 理 番 号 2024P-072
補 助 事 業 名 2024年度 地域社会の安全・安心に資する活動補助事業
補助事業者名 公益社団法人全国少年警察ボランティア協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

少年の立ち直り支援を効果的に推進するためには、それにふさわしい場のあることが望ましい。農作物の栽培、収穫等の農業体験には、ひとつの物事に継続して取り組むことによる忍耐力の涵養やこれらの体験を通じた将来の就労に向けた意欲の向上にとどまらず、情操面における教育効果も期待でき、立ち直り支援の場としてふさわしいと考えられる。さらに、農作業活動においては、その期間中には、農作業面だけでなく、人生経験豊かな少年警察ボランティアが話し相手となり、生活面での指導等も行われており、少年の立ち直りには大きな効果が期待できる。このため、当協会では、全国の少年警察ボランティアと協力し、青少年の健やかな成長を育む活動として、実施しているものである。

(2) 実施内容 <http://zensyokyo.or.jp>

ア 農作業は「結(ゆい)」の精神で

長崎県少年補導員連絡協議会では、令和6年6月から令和6年11月にかけて、西彼杵郡長与町に所在する農地において、主に非行等様々な環境で問題を抱える少年達を対象に延べ11名、警察職員、少年警察ボランティアのほか大学生ボランティアを含め延べ47名が参加して「農業体験を通じた立ち直り支援活動」を実施しました。

第1回の開会においては、さつま芋のつる差しを行い農作業指導者から「今回の農園活動は、会話を楽しみながら行って欲しい、昔から田植えなど農作業は“結(ゆい)”という精神で行ってきた、皆さんには農作業を通じて、この結の精神を育てて欲しい。」と挨拶があり、大学生サポーターと協力しながら丁寧に作業を行いました。

第2回目(8月5日)は、農園の除草作業を行い、高校で園芸を学ぶ少年は手際よく作業を行うなどしていたため、農業指導者から手際の良さを褒められ嬉しそうであった。

第3回目(11月9日)は収穫作業を行い、参加した少年達は少年補導員や大学生サポーターと会話を楽しみながら一生懸命にさつま芋を掘り出し、収穫したさつま芋はコンテナ12個分と大豊作であった。

〈参加した少年の感想〉

農作物が食卓に届くまで、農家さん達は沢山の作業をしなければならないことを身をもって実感した。家に帰って大切に食べたいと思う。などと話していました。

〈少年補導員の感想〉

作業を通じて、皆の笑顔を見ることができてよかった。これからも活動を通じて

(別紙5)

少年達の居場所づくりに努め、積極的に少年との関わりを持っていきたい。

〈学生サポーターの感想〉

少年や少年補導員の方々と色々な話を聞き、ここで経験したことを今後の活動に生かしていきたいなど建設的な話が聴けました。

〈参加した保護者の感想〉

私自身子供のことで辛い気持ちを抱えていたが、農作業を通じて子供の喜ぶ姿が見られて本当に嬉しかった。警察やボランティアの方々に見守っていただいていることが実感でき、感謝の気持ちでいっぱいです、などの話がありました。



イ ゲームでは体験できない楽しさ

大阪府少年動員等連絡協議会では、令和6年4月から令和6年12月にかけて、泉佐野市、貝塚市のそれぞれの農地において、継続補導中の少年達を対象に延べ20名、少年警察ボランティア延べ5名、警察職員等延べ65名、教職員等延べ25名が参加して「農業体験を通じた立ち直り支援活動」を実施しました。

6月22日に田植えを行い、少年達と少年警察ボランティア、警察職員等が参加して慣れない手つきで一生懸命苗を植えつけました。また、7月～9月にかけては畑の除草作業などを行い、7月31日には案山子づくりにも挑戦しました。12月に入り野菜（キャベツ）の収穫作業を行い、大きく育ったキャベツを刈り取り収穫した作物は少年達に持ち帰らせる等して、少年が学校や保護者との交流を深めるきっかけになるよう働きかけを行いました。

〈参加した少年の感想〉

野菜やお米が、こんなにも大変な作業と時間をかけてできていることが分かったので、食べ物を大切にしたい。

案山子始めて作ったり、コンバインに乗せてもらったりして作業を行った体験はゲームとは違った楽しさだった。参加してよかった。

などと話してくれました。

〈保護者・教師等からの感想〉

家では子供との会話も少なく、自分の部屋に閉じこもってゲームばかりしていて、作業を誘った時も乗り気ではなかったのですが、一緒に作業をする中で会話も弾み、笑顔も見せてくれ、子どもと良いコミュニケーションを取る切っ掛けとなりました。収穫物を持ち帰るよう勧めた時の少年の嬉しそうな顔、そしてちょっと誇らしげそうな笑顔を見ると自分も元気になります。

少年が社会生活を送るために大事な他人への思いやりや周囲と協調して物事をやり遂げる力を少しでも身に付けてくれたらよいと思います。
などの声が寄せられました。



ウ 餅つきで収穫の喜びを分かち合う

福島県少年警察ボランティア連絡協議会では、令和6年6月から令和6年11月にかけて、会津若松市北会津町、一箕町に所在する農地において、継続補導中の少年達を対象に延べ30名、少年警察ボランティア延べ49名、関係機関・保護者等延べ11名、警察職員延べ17名が参加して「農業体験を通じた立ち直り支援活動」を実施しました。

第1回 田植え (6月2日)

参加者らは、農業指導者から作業の説明を受けた後、特殊な器具を使い水田に線を引き、苗を水田に植付けました。時折、水田の泥に足を取られ転びそうになり、少年警察ボランティアの方に手を引っ張ってもらうなどしていました。当日、参加した少年のうち一人が、15歳の誕生日であることを知った少年警察ボランティアは、サプライズで誕生日ケーキを提供し全員で「Happy birthday to you」を歌い祝すと少年は、赤面し照れくさそうな笑顔を見せてくれました。田植え終了後は、少年警察ボランティアの方々が準備してくれた豚汁とおにぎりで昼食会を開き、田植えの感想などを話し合いました。

第2回 ジャガイモ掘り (6月28日)

この日は、参加者が2班に分かれ、スコップで掘り起こすグループと掘り起こしたジャガイモを拾い集めるグループで役割分担を決めて作業を進めました。収穫後は、全員でカレー作りを行い、自分たちで収穫したジャガイモを楽しそうに調理して食事後は、農業指導者へ感謝の意を伝えました。

第3回 稲刈り (10月12日)

自ら植えた苗が育ち稲穂となっているのを見た少年は、「すげー、この辺は、俺が植えた場所だ。」などと目を輝かせていました。

稲刈りでは鎌の使い方に悪戦苦闘している少年たちでした。また、初めて見たのかコンバインで脱穀されるのをみて興味津々でした。作業後は、事前に刈り取っていた新米を炊き上げ、カレーライスで食事会を行い稲刈りの話で盛り上がりしました。

第4回 里芋、ネギ掘りと収穫祭 (11月16日)

農園近くの方から、ご厚意で里芋・ネギ掘りの体験をさせていただきました。その後、杵と臼を使い餅つきを突き(収穫祭)を行いました。ヨイショの掛け声で杵を振り上げ、はじめての餅つきを経験した少年達は笑顔が溢れていました。突きあがった餅は、汁餅、あんこ、納豆、きな粉餅にして全員で収穫の喜びを分かち合いました。

(別紙5)

最後に少年達から感想を述べてもらったところ、「楽しかった、次も参加したい」などと話していました。また、少し反抗的だった少年も「楽しかった。」「また、やりたかった。」などと話すと、少年警察ボランティアは感激し、「うん、うん。」と頷いて「また、やろうな。」と声をかけていました。

少年警察ボランティアからは、「反抗的だと思っていた少年からお礼を言われたときは嬉しかった」、「作業をしていく中で、同じ目的を持った少年警察ボランティア同士の交流も深まった」などの声が多く聞かれました。

農作業を通じて、社会性の向上と少年の居場所づくりの一助となった活動となり、少年警察ボランティアが互いに成長した1年となりました。



2 予想される事業実施効果

少年の再非行（再犯）の看過は、将来を担う少年を健全に育成するという精神に反するものであり、非行(犯行)の反復は、非行（犯行）の悪質化、さらには成人犯罪者も含め社会全体の治安の悪化につながることになる。

農業体験活動によって、支援対象少年がひとりでも多く立ち直れば、少年の健全育成という国民の願いが叶い、また犯罪発生の減少によって治安が安定し、安全・安心な社会を実現することとなる。

3 補助事業に係わる成果物

- (1) 補助事業により作成したもの 該当なし。
- (2) (1) 以外で当事業において作成したもの 該当なし。

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益社団法人 全国少年警察ボランティア協会

住 所： 〒255-0003

東京都千代田区平河町1丁目8番2号 山京半蔵門パレス303号

代 表 者： 役職名 理事長 田中 法昌

担 当 部 署： 総務課

担 当 者 名： 事務局長 柴田 佳幸（シバタ ヨシユキ）

電 話 番 号： 03-3239-4970

F A X： 03-3556-1133

E - m a i l： zensyokyo.4970@kbe.bigio.be.ne.jp

U R L： <http://zensyokyo.or.jp>